

◆新技術定着試験

オキナワモズク培養技術の普及（八重山地区）

八重山農林水産振興センター 中村勇次

1. 目的

八重山地区においては、モズク養殖が始まって日が浅いことや天然母藻が確保しやすい環境にあることから未だ培養種が普及していない。母藻を使用する場合、天然母藻の有無により採苗時期が左右されるため、安定的な採苗を行うことができる培養種を普及させる必要がある。昨年から培養種による種付けを指導しており、数名であるが培養種を使用した種付けを継続して行いたいとの要望があったことから、今年も引き続き拡大培養及び培養種による種付けを指導した。

2. 材料及び方法

石垣市種苗施設の一角に設けたモズク培養室を拠点にモズクの培養作業を行った。前年拡大したオキナワモズク株のうち沖縄本島本部産1株と水産海洋研究センターから提供を受けた2株（石垣産と沖縄本島玉城産）の計3株を中心に石垣市種苗施設で拡大培養した。

前回、すべての生産者に提供した培養種が生産者によっては使用されずに廃棄されたことから、今年は必要な生産者のみに培養種を配布することにした。

3. 結果及び考察

拡大に伴い、雑藻の混入が見られたことから、雑藻の混入のない2株（石垣産、沖縄本島本部産）を拡大培養して、9月7日から要望のあったモズク養殖生産部会員へ随時配布した。配布は10月21日に終了し、のべ8名の部会員に合計51%の培養種を配布した。配布後の拡大培養についても指導し、おおむね種付けに必要な量までの拡大培養を行うことができた。

4. 今後の課題

今期は漁業者から要望のあった石垣島産のオキナワモズク培養種を必要量配布することができた。一部の漁業者で拡大培養を行った株から緑藻の繁茂により廃棄する株が発生したが、早期に対応できたことから事後の拡大培養で必要量の種を確保することができた。今後、雑藻混入の経路を特定して混入防止を図る必要がある。2年前からエアコンプレッサーを室内に配置したこと、雑藻の混入は外部からの出入りによるものと考えられる。市の種苗施設は、不特定多数の出入りがある施設なので、衛生管理についても引き続き周知する必要がある。



石垣市種苗施設内のモズク培養室